2025 年 5 月 24 日（土）

感性を磨く！　－東野 圭吾シアター観劇－

昨夜 23 日（金曜日）、演劇に興味を持つ中学 3 年生女子生徒を引率して池袋のサンシャイン劇場で、『舞台　祈りの幕が下りる時』を観賞して来ました。本作品は、これまでも『容疑者 X の献身』『ナミヤ雑貨店の奇蹟』などの舞台化を手がけたキャラメルボックスの成井 豊が脚本･演出。文化庁子供舞台芸術鑑賞体験支援事業として演劇部関係の生徒は無料招待という企画で、しかも 2 階席最前列と恵まれた席でした。本作品は加賀 恭一郎を主人公とする一連の東野作品のシリーズで、2018 年 1 月には同名映画（監督:福澤 克雄）も公開されました。劇場に入ると、すでにテーブルやイス、ソファーなどのセットは設えてあり、これから約 2 時間どのように展開されるだろうかと想像しつつ開演を待ちました。

加賀 恭一郎役は多田 直人、警視庁捜査一課の松宮 脩平刑事役を小西 詠斗が務め、最初から早口の台詞回しに圧倒されました。しかし、劇が始まってから少し舞台全体が暗いなという印象を持ちました。すると、開演から約 20 分過ぎた頃に、舞台上にキャップ帽姿の方が現れ"中止"を宣言！何事かと思ったら、メインの照明装置の不具合とか…。場内はざわつきましたが、演劇ファンの皆は納得。それから 20 分後にかの舞台監督（矢島 健）が現れ、20 分前のシーンから再演！という滅多にないハプニング付きとなりました。バー経営者役の岡田 さつきと、加賀 恭一郎との絡みのシーンを二度見られるという“豪華な劇”となりました。お陰で終演は 30 分押しと遅くなりましたが、息つく暇もないほどの展開を圧倒されながらも充分に楽しむことができました。

物語の背景には、原子力発電所作業員、不遇な家族関係など今の日本社会の抱える問題を含み、それに歴史的な心中を絡めて殺人事件が続くという重い話題を表現力豊かな演技力に敬服しました。

また、ステージ後方上部には物語には欠かせない橋らしきものがセットされており、手前のバーの店内や捜査本部、アパートの一室のセットを邪魔することなく、効果的に利用されて物語は展開されました。そして、ラストのシーンでその役割が見事に活かされていました。

さて、本校生をはじめ観賞していた他校の中高校生達もどのように何を感じたのでしょうか。いずれにせよ感性を磨くことは大切ですね。

石飛 一吉

参考
東野 圭吾（2016）『祈りの幕が下りる時』講談社文庫, 448 ﾍﾟｰｼﾞ.
映画『祈りの幕が下りる時』2018 年、119 分
監督:福澤 克雄　　脚本:李 正美
Cast: 阿部 寛、松嶋 菜々子、溝端 淳平、田中 麗奈ほか